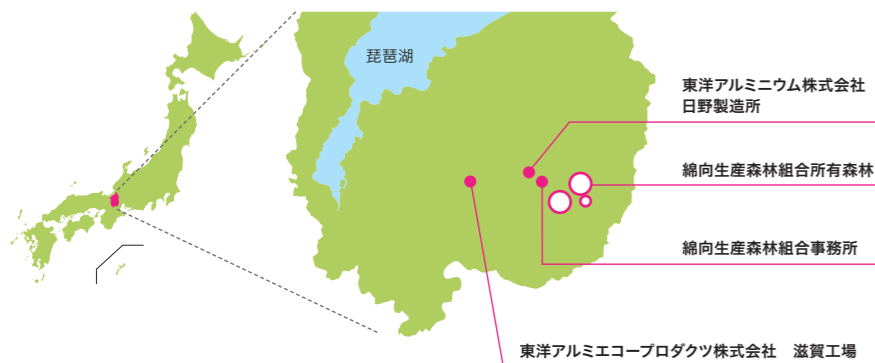


従業員参加の取組みで自然保護や カーボンニュートラル実現に貢献

東洋アルミグループは、2022年6月「第72回全国植樹祭しが2022」に協賛、参加しました。これを契機に東洋アルミニウム株式会社と東洋アルミエコープロダクツ株式会社は、2022年8月に綿向生産森林組合様と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結し、「東洋アルミグループ みんなで創る びわ湖 未来の森」と名付けた協定林で活動しています。日本の国土の約3分の2は森林が占めており、これらを適切に整備、保全することはCO₂吸収量が増え、また、カーボンニュートラル実現の貢献にもつながります。今回、パートナー協定を締結した綿向生産森林組合様と、自然保護やカーボンニュートラルについて意見交換をしました。



琵琶湖森林づくりパートナー協定

琵琶湖森林づくり条例に基づく県民全体で支える森林づくりの一環として、パートナー協定の趣旨・仕組みに賛同した企業・団体が森林所有者と協定を結び、森林整備の推進に参画する取組み。

「琵琶湖森林づくりパートナー協定」締結のお知らせ
<https://www.toyal.co.jp/whatsnews/2022/08/2022081901.html>

綿向生産森林組合
<https://www.rmc.ne.jp/watamukisan/>



綿向生産森林組合
参事(取材時)
西村 聡 氏

水の恩恵を享受できるのは山があつてこそ 山の魅力、山の仕事を もっと発信していきたい

琵琶湖には117もの河川が入り込み、琵琶湖を介し淀川に流れ、海に達します。滋賀の山々と、都市部、湾岸地域も密接につながっています。大勢の方に、環境問題や自然に関することを知ってもらえるよう、私たち川上に暮らす人間がどんどん情報発信していけたらと思っています。

パートナー協定によって異なる業種の方に山に来てもらい、山の仕事というものに気づいてもらう点も重要です。いろいろな方に来て見て体験してもらうことで、山への理解を深めてもらえるチャンスだと思っています。管理の行き届いた山林は、降った雨を蓄水水源涵養の役割を果たしています。また、“おいしい空気をつくる工場”でもあり、私たちは山のおかげで、さまざまな恩恵を受けています。

カーボンニュートラルに取り組まれている企業の方々は、いろいろご苦労されていることをひしひしと感じています。2023年1月に温室効果ガスの排出量削減や吸収量を「クレジット」として国が認定を行う「J-クレジット制度」の認証をいただくことができましたので、こちらも連携できることを願っています。



東洋アルミエコープロダクツ株式会社
生産ユニット
滋賀工場長
上田 昌弘

環境問題を多方面から見つめることで 従業員の仕事、生活がもっと豊かなものに

東洋アルミグループには、自律型マネジメントを推進する「OKR」という活動があります。滋賀工場では、無事故や品質向上など、工場内だけの目標でしたが、もっと地域と一緒に取り組める活動があればと思っていました。そんなときに日野製造所から森づくりの話聞き、この素晴らしい活動にぜひ一緒に取り組みたいと思い参加させていただきました。

私たちの生産している食品容器は、清潔性、簡便性が評価されて需要拡大してきましたが、製造している容器は使い捨てであり、環境負荷の高い製品とも言えます。そこで2009年にプラスチック容器から紙容器へ生産製品をシフトし、同時に森林認証を取得することで環境にやさしい製品づくりを実践してきました。

今後もカーボンニュートラルを目指しながら、製品だけでなく従業員が森林組合様との森づくりの活動に参画し、環境問題に取り組むことで会社を誇りに思い、森も気持ちも豊かになればと考えています。



東洋アルミニウム株式会社
コーポレート部門
事業支援ユニット
CSR推進チームリーダー
菊川 正信

従業員の家族も巻き込みつつ 主体的な環境保全活動へと育てていく

当社には、「サステナブル・リンクラボ」という有志による従業員の活動があります。この活動の中で、「第72回全国植樹祭しが2022」に参加したのが綿向生産森林組合様と出会うきっかけになりました。植樹祭ということで1回きりの活動ではもったいない、継続して活動をしたいという中で「琵琶湖森林づくりパートナー協定」の締結へとつながっていきました。

昨年10月に除幕式をはじめ植樹などの活動を実施いたしましたが、コロナの影響もあり小規模での実施となりました。

できれば従業員の家族、子どもたちにも参加してもらいたい。昆虫や鳥、森に暮らす生き物たちを見て、自然の楽しさ・不思議さを実感できるような森づくり活動に育てていきたい。従業員が参加することを楽しみにもしてもらえれば成功ではないかと思います。

また製造現場ではCO₂や廃棄物削減という取組みへの意識は徹底していますが、オフィス勤務ではなかなか自分の問題意識として持ちにくい面もあります。もう少し意識付けをしようという「トータル ゼロカーボンアクション」という取組みも行いました。

社内的な土台をしっかりと築き、綿向生産森林組合様との取組みが継続するよう活動していきたいです。



東洋アルミニウム株式会社
パウダー・ペーパース事業本部
日野製造所長 兼
日野製造所ユニットリーダー
森口 克也

ステークホルダーの皆さまと連携しながら 美しい滋賀の環境保全を目指したい

滋賀は近畿の水瓶である琵琶湖があり、大気や水質などの環境規制は非常に厳しく、製造所全員でその遵守に努めています。昨年、滋賀県で開催された全国植樹祭に参加をさせていただきましたが、その催しでは、ただ植樹をするだけでなく、森林管理を行っている方から周辺地域の自然環境についての説明会もあり、非常に興味深いものがありました。

また、私も日野製造所の敷地には、木や緑が多く生えており、自然保護意識の高まりから、昨年より「里山再生プロジェクト」=有志が集まって下草刈りや、倒木の撤去、桜の植樹といった活動も始めています。

カーボンニュートラルを実現させることは、地球環境の保護はもちろんですが、事業を継続する上でも重要なポイントになってきています。最近お客さまから、「製品の製造時に、どの程度の温室効果ガスを排出するのか?」といったお問い合わせを受けることが多くなりました。カーボンニュートラルの実現には、今後さまざまな取組みが必要ですが、自然環境の保護活動と合わせて、森林組合様、お客さま、地域の皆さまと協力しながら、実現を目指していきます。